はたけは
ひろいな
おおきいな

2018. 03

〒722-1701
広島県世羅郡世羅町小国4648
TEL&FAX (0847)37-2153
E-Mail farm-01@yamamoto-family.jp
URL http://www.yamamoto-family.jp/

Yamamoto Family Farm
山本ファミリー農園

雪どけとともにやってきたのは、春ではなく、シカでした･･･

我が目を疑うその光景･･･。
日陰に残っている雪の上には、たくさんのシカの足跡。
ネットがはがれた白菜のうねと、中心が食べられてしまった白菜。
白菜も、辛味大根の葉っぱも、ビーツの葉っぱも、見事に食べられてしまいました。

よく見ると、あたり一面、いたるところにシカのフンが･･･。
フンの量と足跡の多さは、１匹、２匹のものではありません。
シカ除けのネットに穴が開き、そこにしっかりと踏み跡ができていたので、シカの群れが畑に入ったのだろうと思います。
畑の雪がとけるのを待っていたのは、私たち人間だけではありませんでした。

〈箱ワナに、シカが！〉
2月10日の夕方。
思いがけず、シカが入っていました。
ビックリです！

大切に食べる
工夫して食べる

2月上旬には、この冬3回目の強い寒気がやって来ました。
この冬は気温の低い日が続き、自分たちの食べる野菜も少なくなり、ある野菜を工夫して食べる日々が続いています。
いつもなら、虫食いだったり小さかったりして出荷できなかった自家用野菜を、いかにして残さず食べきるか･･･に頭を悩ませることが多いのですが、今は その逆。少ない野菜を無駄にしないよう、大切に食べています。

そんな中で生まれた今月のかくれた大ヒットは、いつものお好み焼きの中から、ゴローンと出てくるキクイモとコロコロに切った太ネギ！ その存在感とビックリ感に、クスッと、笑ってしまいました。
一度に食べきれなかったホウレン草は、ザク切りにして生のまま冷凍。凍ったまま熱湯をかけるだけでおいしく食べられたのも、今月の大発見でした。

〈畑に、シカが！〉
2月16日。
シカの群れに、畑に入られました。
シカにこれ程まで食べられたのは、初めてです。

〈3月の野菜〉
□露地の畑では、人参、ネギなどが残りわずか。
ホウレン草やアサツキ、菜の花などが採れるようになってきます。
□ハウスの中では、水菜やホウレン草、小松菜、ロケット、わさび菜、リアスからし菜、ラディッシュなどが収穫中。
大根間引き菜や葉タマネギ、カブ菜などの収穫が始まる予定です。

ハウスの中の野菜には、アブラムシやヤサイゾウムシの幼虫などがついていることがあります。
葉の裏や根元など、よく洗ってください。
50℃洗いがおすすめです。

〈やっと葉が伸びてきました！〉
11月25日に種まきをしたハウスの中の大根です。
昨年は、2月中旬から間引き菜が収穫できたのですが、今年は遅れ気味。
2月号に続いて、2回目の登場です。

おとなりのいつものメニューは、あなたの新メニューになれるかも？

長芋のローズマリー炒め

□ 輪切りにした長芋をじゃが芋のローズマリー炒めの要領で、オリーブオイルでローズマリーと共に炒め、塩、コショウで味付けします。

かぼちゃのバジル炒め

① かぼちゃを5mmの厚さにくし形に切り、オリーブ油でふたをして弱火で両面を焼く。

② □七分通り火が通ったら、みじん切りのニンニクを加え、香りが移ったらバジル(ドライ)を加え、再びフタをして蒸し焼きにして、ハーブソルトで味をつける。

③ □盛り付けて、パセリを散らすと良い。

（広島市　Kさん）

下茹でした葉物のあえもの

ストックしてある下ゆでの葉物をあえますが、その相手を変えていろいろ変化をつけます。

① 下ゆでした野菜は、2㎝くらいにきざみ、よくしぼってバラ凍結をします。

② 使うときに好きなだけ人数分をほぐします。

③ 炒ったジャコ、のり、かつお節などとあえます。

（名古屋市　Mさん）

冬から春にかけて葉物野菜につく厄介な虫

“ヤサイゾウムシ”

冬の葉物野菜(小松菜、ほうれん草、からし菜、白菜など)には、ヤサイゾウムシという、小さな白っぽい虫がついていることがあります。小松菜やほうれん草などでは、中心部の生長点付近に、白菜では、中心部に向かって真っすぐ食べ進んでいることが多いです。

他の害虫の活動が少なくなる、秋から翌年の春にかけて広い範囲の植物を加害する虫ですが、農薬には弱く、慣行農法では被害に遭うことは稀だそうです。

ヤサイゾウムシの成虫

分類：

ブラジル原産の外来種で、甲虫目(鞘翅目とも)カブトムシ亜目ゾウムシ科の昆虫です。学名は、*Listroderes costirostris* Schoenherr。

日本には、1942年頃に侵入してきたそうです。

生態：

成虫は体長９ミリくらいの、くすんだ灰褐色です。後翅は後退して飛べませんが、歩行力が強いそうです。夏の暑い時期には土中や雑草の下で夏眠し、秋の気温の低下とともに活動を始めます。日中は地際に潜み、夜間に活動します。

成虫、幼虫ともに、野菜を食べますが、特に幼虫は新芽内や若い葉を食害するので、被害が大きくなります。加害植物は、アブラナ科、ナス科、セリ科、キク科を中心に26科97種に達するとされ、きわめて広食性の昆虫です。

幼虫

繁殖：

日本に生息する系統はメスだけで、オスはいないそうです。単為生殖で繁殖し、1頭のメスで1000個以上の卵を、秋から翌春までの長期間にわたり産みます。

終齢幼虫は体長１２～１４ミリの紡錘形で、体色は乳白色です。蛹は淡緑色で、土中で蛹化し、晩春から夏にかけて成虫になります。